

建材 マンズリー

No.603 **1** JANUARY
2016

特集

2016年の 注目キーワード

好木心

世界一長い木造歩道橋「蓬莱橋」

注目企業を訪ねる

株式会社 陣屋



市場環境の変化に対応できる収益基盤づくり

住友林業株式会社 取締役 常務執行役員 木材建材事業本部長 福田 晃久



明けましておめでとうございます。

平素は「建材マンスリー」をご愛読賜り、誠にありがとうございます。また、旧年中は格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

2015年の世界経済は、中国経済の減速が鮮明になった影響からアジア諸国の経済にも陰りが見え、欧州ではシリア難民問題など、先行き不透明な状況が続きました。国内においては、日本銀行が2015年度のGDP成長率の予想を引き下げると、景気回復は足踏み状態となりました。政治面では、安倍政権が新たに3本の矢を発表し、デフレ脱却は近いとの認識を示すことで、日本経済を新たな局面に導こうとしています。

国内住宅市場を振り返りますと、消費税増税に伴う需要減少から持ち直してきたものの、本格的な回復には至りませんでした。2017年4月には消費税の再引き上げを控え、本年は駆け込み需要とその反動減の発生が予想されます。景気次第では長期的な低迷の可能性があるとともに、今後縮小が見込まれる新築市場を見据えると、収益を確実に確保できる体質強化の必要性を痛感しております。

このような中、弊社では、既存事業の強化と収益基盤拡大を行い、新築市場の動向に過度に左右されない、また、市場環境の変化に対応できる事業ポートフォリオの構築を通して、皆様のお役に立てるよう一層努力して参ります。

既存事業では、国産材の輸出やバイオマス発電用の燃料チップ販売など、需要増加が見込まれる市場への取り組みをさらに拡大させて参ります。

低層公共建築物の木造化が進み、民間でも需要拡大が期待される非住宅市場においては、専任チームを新設し、木造化を積極的に提案することで資材供給につながるよう注力いたします。

近年急速に都市化が進むインドでは、都市部での住宅供給が増え、建材市場の成長が見込まれます。昨年インドの有力メーカーと、出資による資本業務提携を行い、現地の木質建材市場へ参入、インド国内における建材の販売体制構築を進めて参ります。

また、アジア・オセアニアの7拠点を中心として、既存商品の販売だけでなく、新たなビジネスモデルの拡大にも取り組んで参ります。

さらに、国内流通事業において、固定費を変動費化する物流改善のご提案や施工機能のご提供、ICC

Tを活用した資材受発注の合理化など、新しいサービスや機能の開発にも取り組みます。

私どもは「木」を活かして豊かな社会の実現に貢献するという事業精神にのっとり、国内だけでなくニュージーランドでも山林取得を行いました。グローバルな視点で地球環境に貢献し、木材建材事業にシナジーを生み出して参ります。

昨今、企業の不祥事が相次いでいます。住宅業界においてもマンションの基礎工事に関する偽装問題がありました。高い倫理観と正しい基準で物事を判断し、本質を見失わないよう努力していかなければなりません。また、2016年の十二支「申」は、果実が成熟に至るまでの伸びを表し、努力が形になっていくという意味だそうです。着実に積み重ねた努力を形にし、皆様とともに業界を盛り上げて参る所存です。

弊誌「建材マンスリー」では本年も市場動向を的確に捉え、より有益な情報を分かりやすくタイムリーに発信していけるよう一層精進して参ります。引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

2016年の注目キーワード

職人不足や、空き家問題など、住宅業界の課題が浮き彫りになった2015年。

一方、東日本大震災から5年となる2016年は、防災意識の高まりや、2017年の消費税増税を前にして新築やリフォームの駆け込み需要など、様々な動きが想定される。

そこで、2016年に注目される住宅・建設業界のキーワードの中から、「建材マンスリー」が独自に抽出した3つのキーワード

「電力小売りの全面自由化」、「IoT(Internet of Things)」、「セルロースナノファイバー (CNF)」について、それぞれの専門家に話を聞いた。

電力小売りの全面自由化

2016年4月から、一般家庭や小規模な商店など「低圧(50kW未満)」の契約者に対する電力小売りが自由化される。高層ビルや大規模工場に対する電力小売自由化はすでに2000年から始まっており、2004年には商業施設やオフィスなどに対象を広げ、今回、全面解禁となる。市場規模8兆円と言われる一般家庭や商店などへの電力小売りが自由になることで、各業界から多くの参入が見込まれる。

CCRC
(継続介護付きリタイアメント・コミュニティ)
国産材
利用促進
ドローン

コンパクト
シティ
CLT

既存住宅の増築・改築に係る
長期優良住宅認定基準

IoT(Internet of Things)

日本語では「モノのインターネット」とも呼ばれる。身のまわりのあらゆるモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続することで自動認識や自動制御、遠隔計測などを行う。あらゆるモノにセンサーが組み込まれて直接インターネットにつながり、人とモノ、あるいはモノ同士が相互に通信する。住宅への活用も研究が始まっている。

セルロースナノファイバー(CNF)

植物の細胞壁の主成分であり、植物構造の基本物質であるセルロースを、100万分の1ミリレベルのナノサイズにまでほぐすことで得られる、最先端のバイオマス素材である。原料は植物資源で、樹木はもちろん竹や稲ワラ、草本類などからも生み出すことができる。生産から廃棄まで一貫して環境負荷が小さく、鉄の5倍の強度を持ち、比重は5分の1という、高強度かつ軽量が特長である。

中古住宅市場
の活性化

職人不足

自然災害
対策

ネット・ゼロ・エネルギー住宅
(ZEH)

消費税増税

電力小売りの全面自由化

家庭向け電力市場開放、住宅業界も参入

8兆円の電力市場が4月から自由化

「今年4月から新たに小売りが自由化される低圧(50キロワット未満)の電力市場は、およそ8兆円。その大部分が一般家庭であり、電灯契約数にすると約7800万件になります」と、坂越健一氏は市場規模の大きさを強調する。戸建てや集合住宅などへの電力市場が開放されるのだ。

家庭向け電力市場へは、小売電気事業者としての参入と、代理店としての参入という二つのパターンが考えられる。小売電気事業者となる場合、経済産業省へ登録する必要がある。様々な業界の事業者が参入を検討しており、大手ハウスメーカーなども参入の意向を示している。小売電気事業者と代理店契約を結ばば、登録なしに代理店として誰でも参入できる。この際、電力供給の

ノウハウは必要なく、求められるのは営業力だ。現在、多くの小売電気事業者が代理店を求めており、このケースは今後増えていくと思われる。

小売業参入のメリットは顧客との接点が増えること

住宅事業者にとつてのメリットは何か。実は電力小売事業だけでは大きな利益は望みにくい。小売りの利潤よりも、顧客との接点を増やし、それを有効活用することに価値があるという。

「住宅事業者が小売電気事業者になると、毎月の請求書発送などで顧客との定期的なつきあいが生まれ、関係を長く保てるのが一番大きなメリットです。定期点検やリフォームの提案、住宅設備の案内などを請求書に同封するといった、顧客とのコミュニケーションの窓口が一つ増えることになります」



一般社団法人 エネルギー情報センター 代表理事 坂越 健一氏

代理店は、蓄電設備やHEMSといった他商材とセット販売するなど、電力販売を販促ツールとして利用できるという。

電力データを利用して新たなサービスを提供

「HEMSなどで、供給先の電力使用状況を細かく把握することもメリットです。効率的なエネルギー利用を提案する等、通信事業者と提携して家族の見守りや在宅確認などのサービスの提供につなげることもできます」

また、電力使用状況から、ライフステージの変化を読み取り、リフォームの提案にも活用できる。住宅関連事業者は、新築やリフォームの際にこうした機能やサービスをあらかじめ組み込むことができるので、有利な立場にあるといえる。ポイントとなるのは、電力販売を

IoT (Internet of Things)

IoT住宅は住生活を豊かにする視点が重要

生活者の安心・安全を追求し生活価値の向上を図る

身のまわりのあらゆるモノに通信機能を持たせるIoT(モノのインターネット)。渋滞情報の配信システムや、生体情報をリアルタイムで記録して健康管理につなげるサービスなど、様々な分野での活用が進んでいる。

そしてIoTは、住宅分野での導入にも注目だ。すでに家電のIoT化は始まっているが、建材にセンサーを設置してネットワーク化する、住宅自体のIoT化の研究も進んでいるの



トイレ内に設置されたタブレット端末



玄関に設置されたモニター。家の内と外の温度差や紫外線の量などを表示するほか、電気の消し忘れなども知らせる



2階ベランダの外壁カメラ。住宅の外周4箇所に設置されており、リビングのモニターで俯瞰映像を見ることが出来る

だ。株式会社LIXILでは、IoTを導入した施設「Home(ユースクウェアホーム)」を千葉県野田市に建設し、2013年より本格的な実証実験を行っている。

「門扉や外壁、窓、天井、壁、ドア、浴槽、トイレなど、屋内外のあらゆる建材に200個以上のセンサーを設置しています。部屋ごとの温度や湿度、天候や紫外線などの住環境や、ドアの開閉、住人の在室状況などの行動、そして電気やガスなど「エネルギー」のデータを収集・集積しています」(高田巖氏)



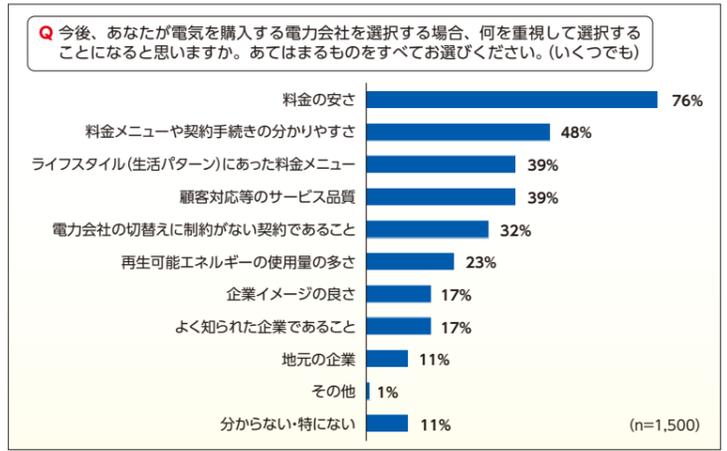
株式会社LIXIL R&D本部 新事業研究センター 情報社会研究グループリーダー 高田 巖氏

モノから収集したデータを分析し、生活価値や住環境の向上を図ることが住宅のIoT化の意義だという。

過度な自動化ではなく住環境を良くする仕組み

「IoT住宅はすべてが自動化された未来の住まいというイメージがありますが、技術を優先しすぎると、かえって生活者が不便になることもあります。IoTは、あくまでも生活者を中心に考え、過度な自動化ではなく住環境を良くする仕組みとして用いるべきだと思います」(高田氏)

電力会社の選択時に重視する項目



通じて、どのようなシナジーを出したいかを明確にしておくことだという。コンサルタント会社や既存の新電力企業などと提携し、情報提供などのサポートを得ることは有効だろう。小売電気事業者の登録はすでに始まっている。電力小売りビジネスが本格始動するのは、ガイドラインなどが出揃う4月以降になる見込みだ。

出所:経済産業省「第6回 制度設計ワーキンググループ 事務局提出資料 ~小売自由化に関する国民意識調査の結果概要について~」

セルロースナノファイバー(CNF)

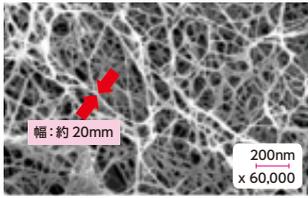
化粧品から建材まで多様な用途に期待

多彩な特性に世界が注目 日本がリードし実用化も進む

2015年6月30日に閣議決定された『日本再興戦略』改訂2015』の中で研究開発を推進する指針が記載されたのが、セルロースナノファイバー(以下、CNF)だ。木材など植物を構成する基本物質「セルロース」をナノ(1ミリの百万分の一)サイズまで分解した繊維素材である。

「次世代を担う産業資材として研究開発の中心となっているのが森林資源が豊かな北米や北欧、そして日本です。特にこの数年は国際標準化

セルロースナノファイバーの顕微鏡写真
(ナノセルロースフォーラムHPから引用)



の議論も高まり、国家レベルでの競争が進んでいます。CNFが日本の素材として早期に事業化できる

よう、産学官が共同で研究を進めていく必要があります。鉄の5分の1の軽さで強度が5倍という性質に加え、熱に強く、酸素などを通さないガスバリア性も高いという特性を生かして、様々な分野での利用が期待されています。国内ですでに実用化された例には、大人用紙おむつがあります。CNFの比表面積*の大きさを利用し、抗菌効果のある銀イオンを大量に担持させることで高い脱臭作用のある特殊シートに加工したものが用いられています(平田悟史氏)。

住宅や航空機にも活用が可能な複合材料は今後の研究に期待

CNFをプラスチックに2%程度

混ぜると、その強度は3〜4倍も向上する場合があります。軽量で高強度という特性は、様々な産業分野で求められる。自動車や飛行機などの輸送用機器用構造部材、家電用部材や建設資材などにも広がると考えられている。一方で、実用化に向けた課題も残されている。

「樹脂とCNFを均一に混ぜることは、水と油を混ぜるような高度な技術が必要なので、製造コストが高いのが現状です。生産規模の拡大と製造方法の改善という両面からコストダウンが検討されています」

住宅業界でも、建材への応用という視点での取り組みが期待されている。軽量で強度が増した複合材料は、土台やサイディング、屋根といった用途が想定される。また、大人用紙おむつのように比表面積の大きさに注目すれば、内装材に混ぜることで、トイレやキッチンまわりなどに適し



国立研究開発法人産業技術総合研究所
材料・化学領域
上席イノベーションコーディネーター
ナノセルロースフォーラム 事務局長

平田 悟史氏

た高度な消臭機能を持つ新しい建材が生まれる可能性もあるという。

「用途の開発はシーズとニーズのマッチングが大切であり、造る側と使う側がお互いに情報を発信、共有することで、可能性は広がります。住宅業界の課題など、業界の意見を集約して実用化への後押しにつなげたいと思っています」

木材のカスケード利用のひとつとして、また、資源が豊富で環境に優しい特性にも注目し、循環型社会を実現する素材としての活用が期待されている。

様々な分野において利用が期待される一例

軽くて強い	→	航空機部材・自動車部材・建材
比表面積が大きい	→	内装材・おむつ
熱に強く寸法安定性が高い	→	電子デバイス
ガスバリア性が高い	→	食品包装
粘性が高い	→	化粧品・食品添加物
透明化が可能	→	フィルター部材
リサイクルが容易な環境に優しいバイオマス素材	→	包装材

*物体の単位質量あたりの表面積

【こうき・しん】

好木心

vol.20

世界一長い 木造歩道橋「蓬萊橋」ほうらいぼし



静岡県
島田市



写真上：© JUN YAMAGUCHI/SEBUN PHOTO/amanaimages
写真右：© HIROAKI OTSUBO/SEBUN PHOTO/amanaimages

静岡

岡県島田市の大井川に架かる蓬萊橋は、全長897.4メートル、通行幅2.4メートルの木造歩道橋だ。通行料は往復大人100円、子ども10円で、今では少なくなった賃取橋としても知られている。1997年に「世界一の長さを誇る木造歩道橋」としてギネスに認定された。また、映画やテレビドラマの撮影にも利用され、年間約7万人もの観光客が訪れる。

1869年(明治2年)、幕臣たちが大井川の右岸に広がる牧之原台地に入植し、茶を作り始めた。その後開拓が進み、開墾農家が県に願い出て、1879年(明治12年)に橋が完成した。

桁木、桁木の下の手持木、敷き板などにはベイマツ、高欄*にはスギとヒノキが用いられている。7メートルほどの橋脚もかつては木造だったが、たび重なる川の増水による崩落のため、1965年にコンクリート製橋脚に架け替えられた。さらに2005年には180本すべての橋脚をPHC(高強度プレストレスト・コンクリート)杭に変更した。

高欄部の手すり(笠木)の高さが敷き板から50センチと、低い位置に作られているのは洪水時の流水抵抗を和らげるため。1994年以降、防腐処理を施した木材と順次入れ替えを行った。桁木と、敷板の間にある均し木の間には防水のため亜鉛鍍きの鉄板を挟んでいる。

点検補修は1日3回の巡回。主に危険箇所や釘の緩みのチェックを行っている。

130年以上の歴史を持つ蓬萊橋。「長生き(長い木)や「厄なし(8974)」の語呂合わせで縁起のいい橋として人気がある。

* 橋の欄干のこと。

注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

IT導入で業務の効率化を図り 倒産の危機にあった老舗旅館の V字回復を達成

株式会社陣屋



代表取締役社長

宮崎 富夫氏

本社 ● 神奈川県秦野市鶴巻北2-8-24
創業 ● 大正7年
資本金 ● 4,140万円
従業員 ● 70名
事業内容 ● 旅館・レストラン・プライダルの運営

情報の見える化で
PDCAサイクルを高速化

「リーマンショックで致命的に経営が悪化し、窮地に陥りながらITの導入で倒産の危機を乗り切った老舗旅館がある。三元湯 陣屋」の4代目社長、宮崎富夫氏は以前は自動車メーカーのエンジニアを務めており、旅館経営には素人だったという。

「旅館の跡取りになるつもりはなかったのですが、経営悪化に加え父の他界と母が病床に伏すという事態が重なり、このままでは大正時代から続く家が人手に渡るといった状況でした。それだけは避けなければという思いで、

「当時、IT化への意識が高いスタッフは少なく、システム導入後も紙台帳やホワイトボードなどに頼るスタッフもいた。IT化には「手間を取られ業務がしにくくなった」という反発の声も大きかった。

「まずは理解を得やすい勤怠管理から利用を促し、地道に広げていきました。やがて、情報共有をメモや電話などで行う手間がなくなり、その分、お客様への対応に当てられるという効果をスタッフも実感してくれました。売り上げ実績なども共有できるようにしたことによってIT化の意識も高まってきました」

旅館業の本業は「おもてなし」。ITは本業に専念するためのツール

「IT化から6年。仕入れ管理の徹底で料理の原価率は10%減を達成した。業務の効率化により人件費も大幅に削減。年間売り上げは、IT化以前のおよそ60%アップの4億4000万円に急回復している。」

「旅館業の本業は「おもてなし」であり、スタッフがそれに集中できる環境を整えるのがITです。ですから、自動チェックインなどのIT化は目指しません。導入はコストではなく、本業の質を高めるための投資と考えています。また実績を分析した結果、稼働率の低い

ここが注目ポイント

経営立て直しのため基幹システムを
自社開発し業務を効率化

稼働率ではなく
単価重視に転換

他旅館にシステムを販売し
業界の活性化にも貢献



玄関では到着時刻や到着した車のナンバーから顧客を確認し、スタッフが陣太鼓で歓迎・送迎するおもてなしも



厨房内では大画面で、接客スタッフは各自のタブレットから常に顧客の最新の情報を確認・共有できる



神奈川県・鶴巻温泉駅から徒歩4分にある陣屋。庭園は1万坪の広さを誇る

2009年10月に社長に就任しましたが、すぐさま経営改善に乗り出しましたが、問題点とはにかく業務体制がアナログなことでした。お客様の好みやクレームなどの情報が女将とベテラン仲居に集中し、他スタッフと共有されていませんでした。原価も細かく管理されておらず、人件費率が非常に高い状態でした」

「勤と経験では経営は回らない。基幹システムの導入で情報を見える化し、PDCAサイクルを素早く回すことが業務効率化や顧客満足度向上に不可欠と考えた。」

「情報の共有や伝達漏れをなくすだけでなく、お客様の利用履歴を活用し、おもてなしの向上につなげたいと思っていました。しかし、大手ホテルなどが利用している基幹システムは、導入コストが高額で手が出ませんでした。また、ハードやOSを選ばずカスタマイズしやすい、条件に合う納得のいくシステムもありませんでした。ならば自社開発するしかない。幸い、SEのキャリアを持つ社員がいたため、プラットフォームは既存のものを利用し、クラウド上で一元管理できる『陣屋』を開発しました。会計処理や売上分析、予約管理など我々の業務に必要な機能を実装させたこのシステムを、2010年1月から全館一斉に導入しました」

週2日を休館日としました。以前は価格を下げて稼働率を高めていましたが、スタッフは疲弊し、おもてなしの質が落ちてしまいました。そこで稼働率ではなく単価を上げる方針にシフト。休館日を設け人件費が減少した分、スタッフの正社員化を促進しました。また研修も実施し、スタッフの満足度とおもてなしの質の向上につながっています」

「こうした取り組みの結果、顧客からの評判も上がっている。また、『陣屋』ネット」を2012年より他の旅館へも販売している。同業他社の要望も吸収できれば、システムのバージョンアップに活かせる。」

「同業他社の方とつながり、ノウハウを学びたいという思いもあり、販売しています。情報交換できるおかげで、接客やアメニティ選びまで様々なおもてなしが学べ、サービスの質の向上にも役立っています。今後は、当館を『陣屋』ネット』の研究所的存在と位置付けてシステムを検証し、改良を重ねて全国の旅館とシェアしていきたいと思えます。日本の旅館業界の底上げを図れば、良い人材も集まりやすくなり、観光大国日本の後押しにもつながるはずです。近い将来、『陣屋』ネット』の海外輸出にも着手し、日本のおもてなしを世界に広げていきたいですね」

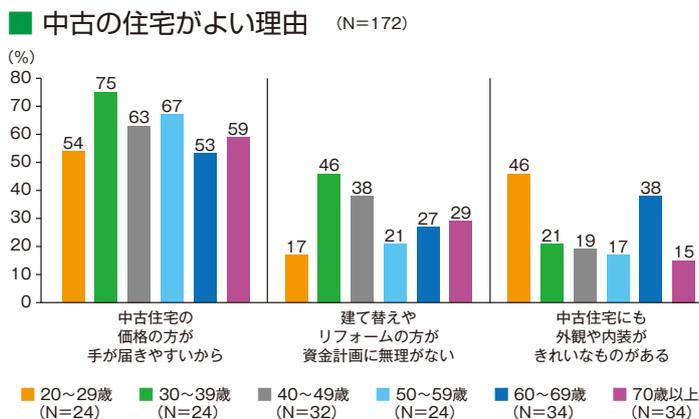
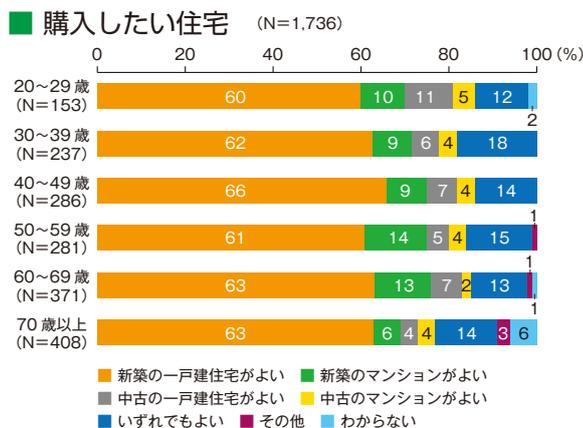
「住生活に関する世論調査」を実施 ―内閣府

内閣府は2015年10月に「住生活に関する世論調査」を行い、概要を発表した。それによると「住宅を所有したいか」の質問に対し「所有したい」と答えた人は74.9%。理由は、同じところに安心して住み続けたいからという意見が最も多かった。

「購入するとしたら新築か中古か」との質問では、どの世代も新築志向だったが、中古住宅購入への抵抗の割合が少なかったのは20代だ。また、新築・中古の「いずれでもよい」と答えた人はどの年代においても15%前後存

在している。

「中古がよいと思う理由」は、どの世代も価格の手の届きやすさといった経済的な理由が多かった。30代と40代では、「資金計画に無理がない」という理由が多い。20代と60代では外観や内装のきれいな中古住宅が評価されており、適切なリフォームで新築と遜色のない外観や内装を備えていれば、中古住宅への潜在的な需要が存在することが推測される。



わが社のイチオシ

「読むと元気になる社内報」で社内コミュニケーションに貢献

私の主な業務は、グループ全体の採用活動と社内報「Umiyuri」の編集です。若手である私がこれから人事の仕事に関わっていく上で、グループの社員一人ひとりのことを知る必要があるということで、広報の仕事の一部を受け持つようになりました。企画・編集から取材・原稿執筆、レイアウトまで全て私が担当です。上手な話の聞き出し方やインパクトのある見出しの付け方など、ゼロベースからの出発で現在も苦戦中です(笑)でも試行錯誤していくうちに、社員とのコミュニケーションが大切で、重要な仕事だと気がきました。今は任された意味を実感しています。

矢橋林業株式会社(岐阜県) 三木 靖久さん
矢橋ホールディングス株式会社

「Umiyuri」には「読むと元気になる社内報」というサブタイトルが付いています。例えば部署や事業の創立に携わった人の苦労話などをじっくりと聞き、記事を読んだ社員が「自分も頑張ろう」と思える誌面を目指しています。社内コミュニケーションの醸成に大きな役割を果たす社内報「Umiyuri」は、「わが社のイチオシ」だと思っています。

社内報「Umiyuri」は、ベトナム、韓国、ミャンマーのグループ会社向けにも各国語に翻訳して配布されている



編集室より

広告掲載・誌面に対するご意見、ご感想は
建材マンスリー編集室専用アドレスまでお寄せください。

kenzai-monthly@sfc.co.jp

住友林業株式会社 木材建材事業本部 事業開発部

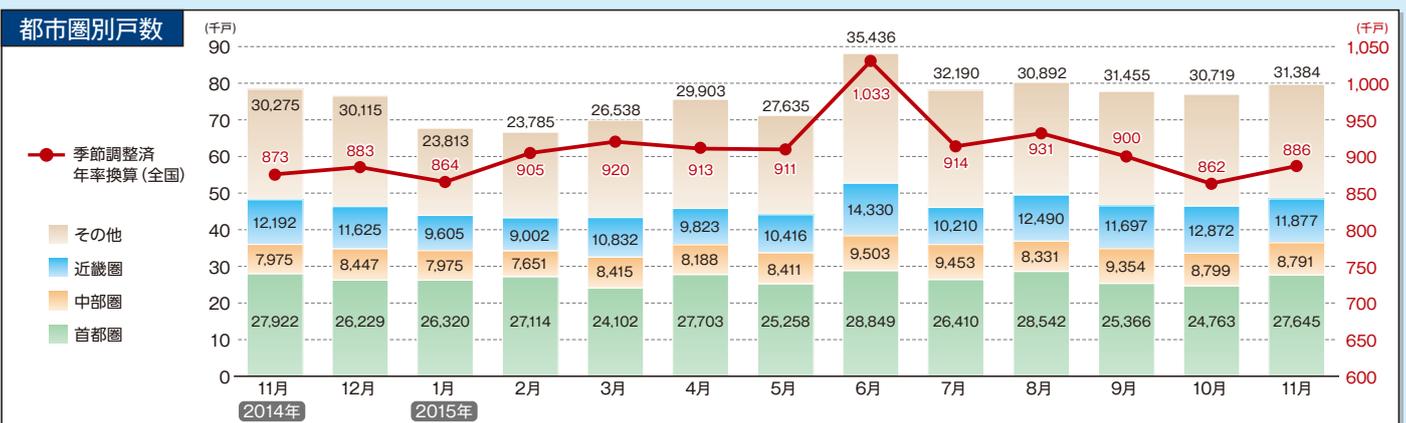
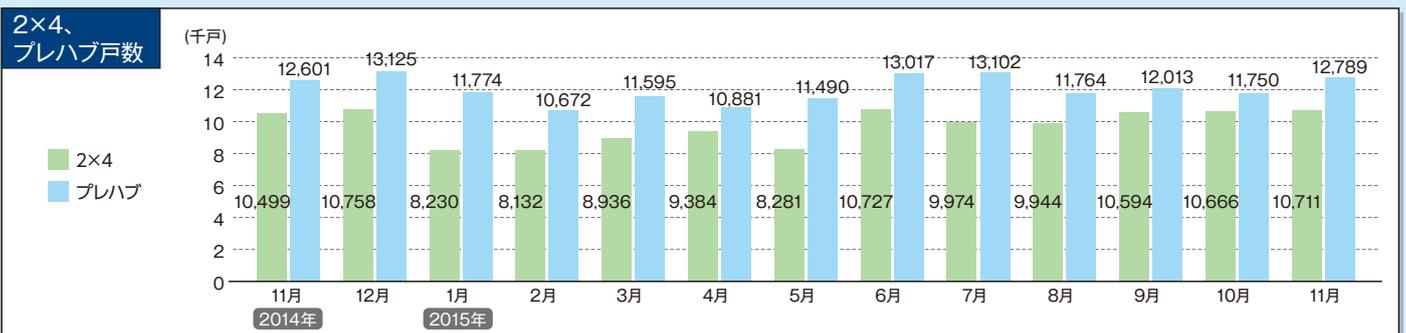
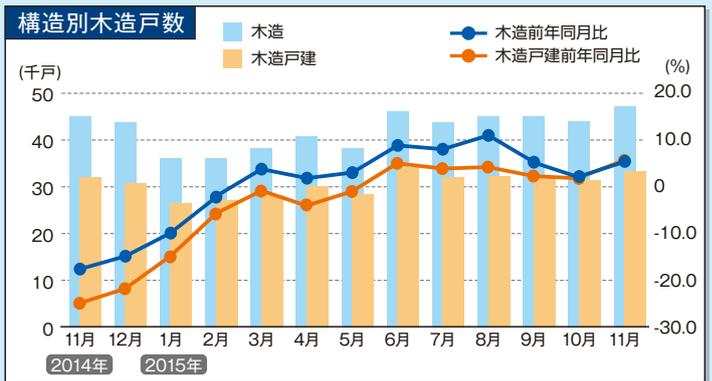
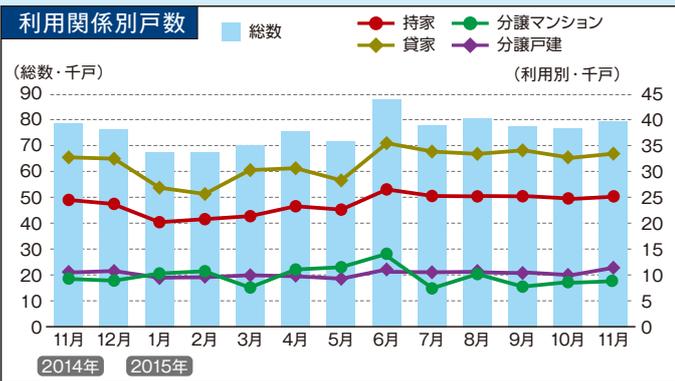
編集後記

明けましておめでとうございます。

今月号より、前編集長の建材マンスリーへの想いを引き継ぎ、新編集長として就任することになりました。身にあまる重責ではありますが、一意専心、より良い情報誌になりますよう努力して参りますので、引き続きご愛読のほど宜しくお願いいたします。申年はサルにかけて、いろいろな災いが「去る」年ともいわれています。2016年、皆様にとって何事も「猿滑(円滑)」に進む1年でありますように。(M)

2015年11月の新設住宅着工戸数 単位：戸 ▲は減

		11月				10月	9月	8月	
		対前年同月比		対前々年同月比					
新設住宅計		79,697	1,333	1.7%	▲ 11,778	▲ 12.9%	77,153	77,872	80,255
建築主別	公共	951	▲ 638	▲ 40.2%	▲ 903	▲ 48.7%	1,654	989	1,364
	民間	78,746	1,971	2.6%	▲ 10,875	▲ 12.1%	75,499	76,883	78,891
利用関係別	持家	25,310	848	3.5%	▲ 9,270	▲ 26.8%	24,830	25,219	25,245
	貸家	33,505	850	2.6%	▲ 1,761	▲ 5.0%	32,757	34,092	33,470
	給与住宅	379	▲ 868	▲ 69.6%	19	5.3%	728	322	328
	分譲住宅	20,503	503	2.5%	▲ 766	▲ 3.6%	18,838	18,239	21,212
	うちマンション うち戸建	8,880 11,471	▲ 375 869	▲ 4.1% 8.2%	▲ 157 ▲ 640	▲ 1.7% ▲ 5.3%	8,690 10,030	7,724 10,351	10,189 10,768
資金別	民間資金	71,211	936	1.3%	▲ 10,422	▲ 12.8%	68,051	69,548	71,456
	公的資金	8,486	397	4.9%	▲ 1,356	▲ 13.8%	9,102	8,324	8,799
	公営住宅	680	▲ 475	▲ 41.1%	▲ 513	▲ 43.0%	1,478	696	953
	住宅金融機構融資住宅	3,837	374	10.8%	▲ 313	▲ 7.5%	4,093	3,865	3,894
	都市再生機構建設住宅	210	▲ 165	▲ 44.0%	▲ 304	▲ 59.1%	141	69	322
	その他住宅	3,759	663	21.4%	▲ 226	▲ 5.7%	3,390	3,694	3,630
構造別	木造	47,485	2,384	5.3%	▲ 7,319	▲ 13.4%	43,954	45,178	45,140
	非木造	32,212	▲ 1,051	▲ 3.2%	▲ 4,459	▲ 12.2%	33,199	32,694	35,115
	鉄骨鉄筋コンクリート造	197	▲ 219	▲ 52.6%	▲ 257	▲ 56.6%	449	169	838
	鉄筋コンクリート造	16,839	▲ 1,717	▲ 9.3%	▲ 2,923	▲ 14.8%	17,928	18,115	20,001
	鉄骨造	15,058	898	6.3%	▲ 1,221	▲ 7.5%	14,697	14,239	14,096
	コンクリートブロック造 その他	52 66	▲ 8 ▲ 5	▲ 13.3% ▲ 7.0%	▲ 19 ▲ 39	▲ 26.8% ▲ 37.1%	63 62	56 115	74 106



(出所：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html)

木と生きる幸福

住友林業グループ



BeRiche ベリッシュ 暮らしをもっと豊かに。

住友林業クレストの収納で心地よく、快適な空間に。

住まいの設計段階から生活動線上に収納スペースを盛り込むことがリビング・ダイニングを機能的かつ美しく保つ重要な要素です。

“豊かな木質感と使いやすさ”をコンセプトに、機能性とデザイン性、そして安全性にこだわった新しい収納提案を。

BeRicheは建具、フロアから収納までトータルコーディネートで豊かな暮らしを提案していきます。

リビング収納

リビング・ダイニングを機能的に美しく保ち、多機能・大容量で居心地のよい空間を実現。クローゼットスペースに設置するインナーユニットタイプと、扉付きの壁面収納タイプの2タイプをご用意しております。



キッチンカウンター収納



木の温もりがキッチン空間に美しく調和する木調のキッチンカウンター収納。モノがあふれたキッチン空間をすっきりさせます。

TVボード



お部屋をナチュラルで落ち着いた雰囲気にする、デザイン性の高いTVボード。リビング周りの小物の収納に便利なフロートボックスも組み合わせてお使いいただけます。

ハンギングシステム収納



玄関周りやクローゼットの壁面を有効活用できるハンギングシステム収納に新パーツが登場。用途に合わせた使い勝手のよい機能が選べます。



住友林業クレスト株式会社

営業本部 〒460-8428 愛知県名古屋市中区錦3-10-33 錦SISビル2階 TEL 052-205-8451 <http://www.sumirin-crest.co.jp/>

建材マンスリー

NO.603

JANUARY
2016

1

昭和39年8月創刊 第52巻 平成28年1月1日発行 (毎月1日発行)
発行人/福田 晃久 発行所/建材マンスリー編集室 〒100-8270
住友林業株式会社 木材建材事業本部 事業開発部

通巻603号

東京都千代田区大手町1-3-2 (経団連会館)

TEL 03-3214-3280 FAX 03-3214-3282

TEL 03-3214-3282